

リニモ沿線地域づくり構想

平成21年3月

愛知県

瀬戸市

豊田市

日進市

長久手町

目次

第1章 構想策定の趣旨	1
1. 策定の背景と目的	1
2. 目標年次	1
3. 構想の対象地域	1
4. 構想の構成	2
5. 策定体制	2
第2章 時代の潮流と地域の特性	3
1. 地域づくりを取り巻く時代の潮流	3
2. リニモ沿線地域の特性	5
第3章 地域の将来展望	9
1. 地域の将来像とまちづくりの基本方針	9
2. リニモ各駅周辺及び海上の森のあり方	15
3. 将来の人口等	29
第4章 地域の将来像実現に向けた基本戦略と主要施策	30
1. 愛・地球博の成果を継承・発展させるまち	30
2. 愛知の新たな飛躍をリードする研究学園地区	37
3. リニモでつながる「コンパクト」なまち	42
第5章 各駅周辺及び海上の森の整備方向	51
1. 長久手古戦場駅周辺	52
2. 芸大通駅周辺	54
3. 公園西駅周辺	56
4. 愛・地球博記念公園駅周辺	58
5. 陶磁資料館南駅周辺	60
6. 八草駅周辺	62
7. 海上の森	64
第6章 構想の推進体制	66
資料編	68

第1章 構想策定の趣旨

1. 策定の背景と目的

リニモ沿線地域は名古屋東部丘陵に位置し、環状・放射状交通の結節点として尾張と三河を結ぶ重要な地域であるとともに、そうした立地条件を生かし、緩やかな丘陵地に多数の大学・試験研究機関が立地し、次世代に向けた研究・創造の拠点となっているなど、今後の名古屋大都市圏の発展を先導し、新たな機能が集積するまちづくりの展開の場として、最適な条件を有している。

このような地域で愛・地球博が開催され、万博後においても、歴史に残る万博の会場地として世界から注目されるとともに、その理念の継承・成果を発信する地として、重要な役割を担っている。

また、万博を契機に整備された鉄軌道・道路等のインフラを有効活用しながら地域の発展を図っていく必要があるが、特に、近年、環境に優しいまちづくり、低炭素社会の実現に向けたコンパクトなまちづくりが求められており、自然環境に恵まれ、リニモという環境負荷の低い公共交通が整備されたこの地域は、環境と共生した地域づくり、新たなライフスタイルに対応するまちづくりのモデルとしてふさわしい地域である。

こうした中で、沿線市町においても、地域を結びリニモを積極的に活用した新たなまちづくりへの機運が高まっている。そこで、当地域のポテンシャルを活かし、さらなる発展につなげていくために、県と沿線市町が共同で「リニモ沿線地域づくり構想」を策定するものである。

2. 目標年次

本構想は、2025年（平成37年）頃までの将来像を展望しつつ、2015年（平成27年）を取組の目標年次とする。

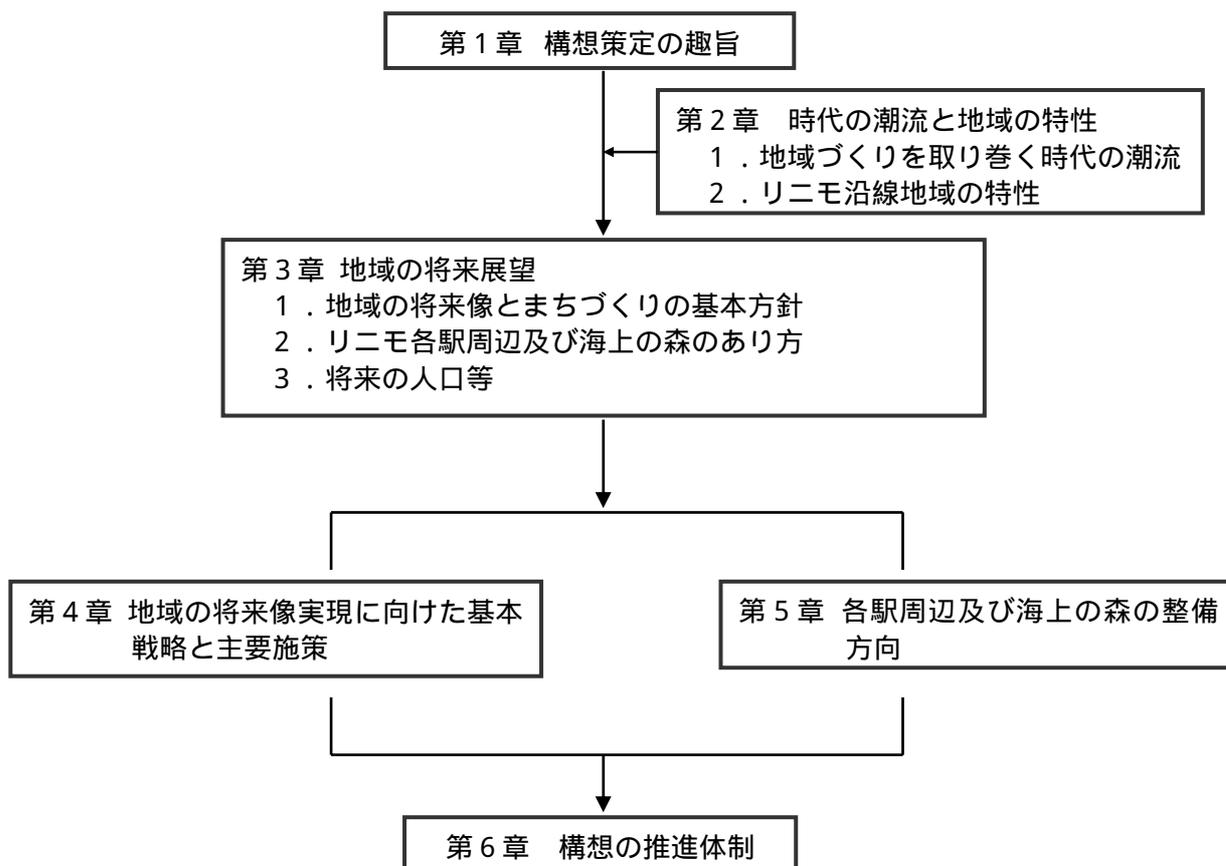
3. 構想の対象地域

地域づくりを計画的に誘導していくことが必要な「長久手古戦場駅」から「八草駅」までの各駅周辺（概ね1km圏）及び愛・地球博の理念継承の場である「海上の森」を主な対象地域とする。

構想の対象地域

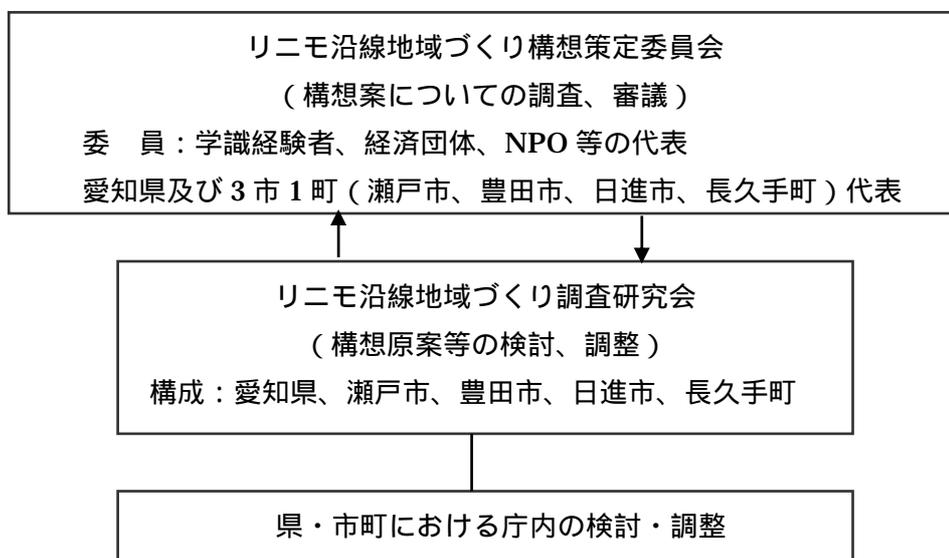


4. 構想の構成



5. 策定体制

本構想を策定するに当たって、県と沿線市町で「リニモ沿線地域づくり調査研究会」を設置し、原案等の検討、調整を行うとともに、「リニモ沿線地域づくり構想策定委員会」を設置し、有識者等から幅広く助言を得た。



第2章 時代の潮流と地域の特性

1. 地域づくりを取り巻く時代の潮流

(1) 人口減少と超高齢社会の進展

わが国の人口は、出生率の低下などにより平成 18 年に減少に転じ、それに伴って少子高齢化も一層進展している。そうした中において人口増加が続く愛知県においても、平成 27 年頃をピークに人口は徐々に減少し、高齢者の割合が大きく増加する超高齢社会を迎えるものと見込まれている。

こうした中、人口減少や高齢化は、労働力人口の減少、単身高齢世帯の増加に伴う地域コミュニティの機能低下等をもたらす懸念があるほか、車を使わないで日常生活が成り立つ、コンパクトで効率的な地域づくりに向け、行政投資の選択と集中への要請も高まっている。

一方で、高齢者の社会活動参画、ユニバーサルデザイン等を重視した地域づくりの重要性が高まるほか、子どもを生み育てやすい環境づくりへの配慮が求められている。さらには、世帯当たり人員の減少、高齢単身世帯や高齢夫婦世帯の増加など世帯構成にも変化がみられることから、それに対応した住宅・宅地の供給等、多様なライフスタイルや価値観への対応が求められる。

(2) 地球規模での環境問題の深刻化

エネルギー対策や資源のリサイクル等、環境への負荷の少ない循環型社会・低炭素社会に向けた具体的な取組の実践が急務の課題となっている。こうした中、市民生活においては、大量消費・大量廃棄型のライフスタイルから、スローライフやロハス（LOHAS）といった環境や健康にやさしいライフスタイルへの転換が注目されている。愛・地球博は、こうしたライフスタイルの見直しの契機の一つとなったが、今後、市民活動、暮らしの中で、さらなる大きな広がりが期待されている。

また、身近な自然環境や生物多様性の保全についての社会的関心も高まっており、里山の保全活動や耕作放棄地の再生活動など身近な自然と共生した地域づくりの重要性も増している。こうした中、生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）の愛知・名古屋での開催が決定し、ますますその機運が高まっている。

さらには、自動車や公共交通、自転車、徒歩等をかきこく使い分けるライフスタイルへの転換を図る「エコモビリティライフ」の推進等により、CO₂ の削減に資する公共交通志向型の持続可能なまちづくりが求められている。

(3) 経済や市民生活におけるグローバル社会・情報社会の深化

世界規模での販売・調達など国際分業を背景に地域間競争が激化する中、企業の国際競争力の強化が求められており、モノづくりの中核拠点が集積する愛知県の優位性を持続させるとともに、産業の高付加価値化を一層進めていくことが重要になっている。

市民生活面では、外国人住民の増加によって地域コミュニティのあり方に変化が生じたり、愛・地球博の成果の一つでもある地球市民交流など市民レベルでの国際交流活動が活発化してきている。このため、世界に通用する人材の育成、日本人と外国人とが共に安心して暮らせる多文化共生社会の形成が求められている。

また高度情報化の進展により、いつでも、どこでも、誰でも情報の入手や通信ができるユビキタス社会の到来が予測されており、地域情報化を先導するまちづくりが求められる。

(4) ライフスタイルや価値観の多様化と協働意識の高まり

わが国の社会経済は成熟化し、市民生活面でも物質的な豊かさだけでなく、癒し、健康、余暇など心の豊かさを重視する傾向が強まっている。一人ひとりが心の豊かさを実感できる社会の実現のためには、生涯にわたって生きがいを持ちながら社会と関わり、生活の充実感や自己実現を達成できることが重要である。

また、近年、個人の社会貢献意識が高まり、環境、福祉、防災、防犯、教育、子育て等、幅広い分野で市民参加活動が活発化しており、地域コミュニティ、NPO など多様な場面で特色ある地域活動が実践されている。

そうした中で、これら主体と行政等との協働によるまちづくりの重要性・必要性が一層高まっており、「新しい公」の担い手づくりが課題となっている。

2. リニモ沿線地域の特性

(1) 広域的な交通ネットワークの充実 ～“交通条件”の優位性～

愛・地球博の開催を契機として、鉄軌道ではリニモの開業や愛知環状鉄道の一部複線化が行われ、道路では名古屋瀬戸道路や東海環状自動車道が整備されるなど、広域的な交通ネットワークの形成・充実が進んでおり、交通利便性の高い地域である。

(2) 大都市近郊の豊かな自然環境 ～“自然環境”の優位性～

名古屋東部丘陵に位置し、名古屋市に近接した利便性の高い場所であるにもかかわらず、優良な田園地帯が広がり、さらに、その東部には海上の森をはじめ多くの森林が残る、豊かな自然環境に恵まれた地域である。

(3) 愛・地球博を継承する施設群と活動 ～“愛・地球博開催地”の優位性～

沿線には、すでに、愛・地球博記念公園（モリコロパーク）、あいち海上の森センター、瀬戸万博記念公園（愛・パーク）が供用されているほか、愛・地球博記念公園内に「地球市民交流センター」の整備が進められるなど、万博の理念・成果を各地へ発信する拠点として、本県の地域づくりにおいて重要な位置を占めている。また、エコマネー活動や環境学習活動など、愛・地球博によって育まれた多くの取組や市民交流活動が活発に行われており、そうした活動への参加意識も高水準にある。

(4) 大学や研究機関の高密度な集積 ～“学術研究機能集積”の優位性～

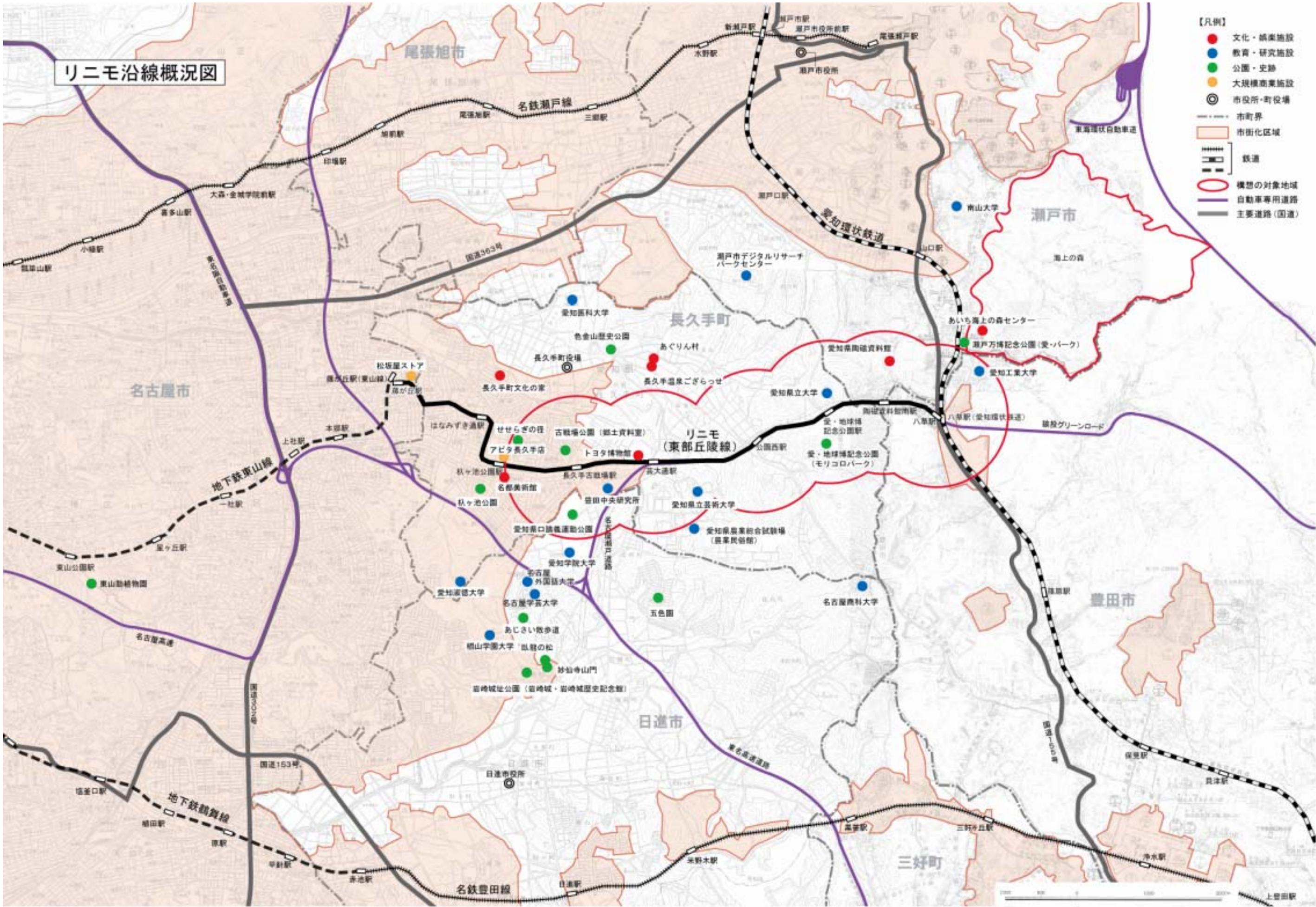
沿線には愛知県立大学、愛知県立芸術大学、愛知工業大学のほか、周辺も含め多くの大学が集積している。また、愛知県農業総合試験場や豊田中央研究所等の研究機関が立地するほか、「知の拠点」の整備が計画されており、人材育成や研究開発など愛知の活力の維持・向上に欠くことのできない重要な役割を担っている地域である。

(5) 名古屋市東部から延びる文化・居住の最東端 ～“居住環境”の優位性～

名古屋都市圏の東の外縁に位置し、名古屋市東部から連なる市街地が長久手古戦場駅付近まで延びており、良好な市街地を形成している。また、大学の集積、愛・地球博記念公園、愛知県陶磁資料館、トヨタ博物館、愛知県口論義運動公園、長久手古戦場公園、あいち海上の森センターなど多くの文化・レクリエーション施設が立地し、文教地区としてのイメージを有しており、全国的には人口減少の流れの中にもありながらも、この地域は子育て世代等を中心に引き続き人口が増加している。

リニモ沿線概況図

- 【凡例】
- 文化・娯楽施設
 - 教育・研究施設
 - 公園・史跡
 - 大規模商業施設
 - ◎ 市役所・町役場
 - 市町界
 - 市街化区域
 - 鉄道
 - 構想の対象地域
 - 自動車専用道路
 - 主要道路(国道)



第3章 地域の将来展望

ここでは、第2章で記述した地域づくりを取り巻く時代の潮流やリニモ沿線地域の特性などを踏まえ、2025年（平成37年）を展望したリニモ沿線地域の将来像を示す。

1. 地域の将来像とまちづくりの基本方針

リニモ沿線地域では、愛・地球博の開催地としての地域特性を最大限に活かすとともに、充実した交通ネットワークや学術研究機能の集積などの優位性を活かした地域づくりを進めることが重要である。こうした考え方にに基づき、リニモ沿線地域の将来像として、3つの目指すべき地域づくりの方向性とまちづくりの基本方針を示す。

愛・地球博の成果を継承・発展させるまち

基本方針1 環境共生型の暮らしが根付くまちづくり

基本方針2 文化・レク施設等に人々が賑やかに集い、楽しく交流するまちづくり

基本方針3 新しい地球市民交流・市民参加活動が生まれるまちづくり

基本方針4 環境分野等の先進的取組を通じ、課題に挑戦しつづけるまちづくり

愛知の新たな飛躍をリードする研究学園地区

基本方針5 最先端の科学技術の共同研究や実証実験が行われ、世界に発信するまちづくり

基本方針6 地域内外の大学・研究機関の相互連携、研究交流が盛んなまちづくり

リニモでつながる「コンパクト」なまち

基本方針7 駅ごとに特色ある都市機能が集積したまちづくり

基本方針8 駅と背後圏が有機的に連携したまちづくり

基本方針9 活発なコミュニティにより持続的に発展するまちづくり

(1) 愛・地球博の成果を継承・発展させるまち

目指すべき地域づくりの方向性

【活かすべき強み】

リニモ沿線地域は、歴史に残る万博を開催した地域として世界から注目され、博覧会の開催理念やテーマの持つ普遍性を 21 世紀の人類社会へ継承・発展・深化させ、この地域から世界にメッセージを発していく、いわば、シンボル・発信地としての役割を有している。具体的には、愛・地球博記念公園、あいち海上の森センター、瀬戸万博記念公園（愛・パーク）が整備され、そこでの環境学習をはじめとした様々な活動・取組、生物多様性をテーマとした COP10 のサテライトとしての活用等、ハード・ソフト両面で万博の理念・成果を各地へ発信する拠点地域として期待されている。

【方向性】

博覧会を契機に整備された施設やインフラはもとより、平成 22 年秋に供用予定である愛・地球博記念公園の「地球市民交流センター」なども最大限に活用しつつ、環境との共生、低炭素社会に向けたまちづくり、地球市民レベルでの交流、コミュニティ活動等への積極的な参加など愛・地球博の理念を継承・発展、さらに具現化させる様々な活動を促進し、その成果を各地へ発信する拠点としてのまちづくりを進める。



まちづくりの基本方針

基本方針1 環境共生型の暮らしが根付くまちづくり

愛・地球博開催地であるリニモ沿線地域においては、これからの地域づくりのモデルとして、自動車や公共交通、自転車、徒歩などをかきこく使い分ける生活、自然エネルギーの活用、自然環境とのふれあいなど、環境と共生したライフスタイルを共有し、それを体現できるまちづくりを進めていく必要がある。

そこで、自然環境に配慮し、メリハリのある市街地整備を進める中で、環境共生型のモデル的な住宅等、良好な民間プロジェクトの誘導を図るとともに、「エコモビリティライフ」を推進することにより、中長期的には CO2 の削減に資する低炭素社会の構築をめざす。

基本方針2 文化・レク施設等に人々が賑やかに集い、楽しく交流するまちづくり

リニモ沿線には、愛・地球博記念公園、トヨタ博物館、愛知県陶磁資料館等、本県のみならず、全国や海外からも集客が見込まれる質の高い文化・レクリエーション施設が立地している。

そこで、これら沿線の施設の充実を図り、施設間の連携、地域資源との連携を強化するとともに、例えば、スポーツ・レクリエーション、産業観光、環境学習等のテーマ別に、モデルルートの設定や連携イベントを実施するなど、地域内外の人々が集い、活発に交流するまちづくりをめざす。

基本方針3 新しい地球市民交流・市民参加活動が生まれるまちづくり

愛・地球博をきっかけに、県内における海外との交流活動、ボランティア活動等が盛り上がりを見せたが、とりわけ博覧会開催地の当地域においては、若者、女性、高齢者等、様々な人々がこうした活動に積極的に参加し、博覧会成功の一翼を担った。

その活力を継承・発展させるため、愛・地球博記念公園内に「地球市民交流センター」を整備し、そこを拠点の一つとするなど、NPO、大学、企業、行政等が連携・協働して国際交流活動、ボランティア活動などに取り組んでいく。

基本方針4 環境分野等の先進的取組を通じ、課題に挑戦しつづけるまちづくり

本地域では、愛・地球博において、新エネルギーの活用、バイオラング(壁面緑化実験)、ITS(高度道路交通システム)等、環境分野や情報分野を中心とした様々な実験的取組が実施されたところである。

こうした理念や成果を活かし、今後もリニモ沿線の新たなまちづくりと連動しつつ、大学、企業、NPO等が連携した先進的取組を積極的に試すことにより、人類の様々な課題への挑戦の場としていく。

(2) 愛知の新たな飛躍をリードする研究学園地区

目指すべき地域づくりの方向性

【活かすべき強み】

リニモ沿線地域は、大学や研究機関等の高度な学術研究機能が高密度に集積しており、その中でも、「知の拠点」は産学行政による次世代モノづくり技術の創造・発信の拠点として、ナノテクを中心とした共同研究開発施設となる先導的中核施設や、ナノテクの計測や開発が行える中部シンクロトン光利用施設（仮称）等の整備が計画されている。この地域の大学や研究機関に通勤・通学する人々がこの地域の交流人口を支えている。

【方向性】

大学や研究機関等の活発な相互連携や研究交流の促進につながる地域づくりを進め、研究成果等を世界に向けて積極的に発信していくことで、本地域のみならず愛知県や中部圏全体の持続的な成長と新たな飛躍をリードしていく先導的な研究学園地区となるまちを目指していくことが求められる。

この地域で活動する就業者や学生の通勤・通学の利便性が高まり、活動の場の提供や学習、研究の成果等が発信しやすい環境が整えられたまちになることが求められる。



まちづくりの基本方針

基本方針5 最先端の科学技術の共同研究や実証実験が行われ、世界に発信するまちづくり

リニモ沿線には、すでに、愛知県立大学、愛知工業大学、愛知県農業総合試験場、豊田中央研究所等、科学技術に関連する拠点施設が立地しており、また、陶磁資料館南駅の北側において「知の拠点」の整備が進められている。

そこで、当地域のリサーチエリアとしての拠点性をより高め、情報発信していくため、多様な共同研究や実証実験が行われるまちづくりを進めるとともに、「知の拠点」とも連携した研究開発型の企業誘致を進める。

基本方針6 地域内外の大学・研究機関の相互連携、研究交流が盛んなまちづくり

リニモ沿線及び周辺地域には、科学技術に限らず、様々な分野の大学・研究機関が集積し、中部地域におけるトップクラスの「学園都市」を形成しており、当地域の大きな強みと考えられるが、これまで、それら機関相互の交流・連携は必ずしも活発とは言えない面があった。

そこで、沿線内に限らず、沿線外の機関も含め、相互の連携・交流を図り、質の高い多様な教育機会の提供、新たな研究分野の創出等が活発に行われるような仕組みづくりを進める。

また、こうした大学・研究機関の研究成果を地域に還元する地域連携活動の充実・強化を図る。

(3)リニモでつながる「コンパクト」なまち

目指すべき地域づくりの方向性

【活かすべき強み】

リニモ沿線地域は、豊かな自然環境を背景としながらも大都市に近接し、春日井、豊田、岡崎等の主要都市中心部、あるいは隣県にも1時間以内でアクセスできるなど、尾張と三河を結ぶ道路や鉄軌道による広域的な交通ネットワークの一端を担う交通利便性を兼ね備えている。

名古屋市東部の住宅地に連続し、多くの文化・教育・交流施設が立地することや、近郊に豊かな自然環境があることなどと相まって、文教地区、子育てのしやすい環境をもつ住宅地となる条件を備えている。

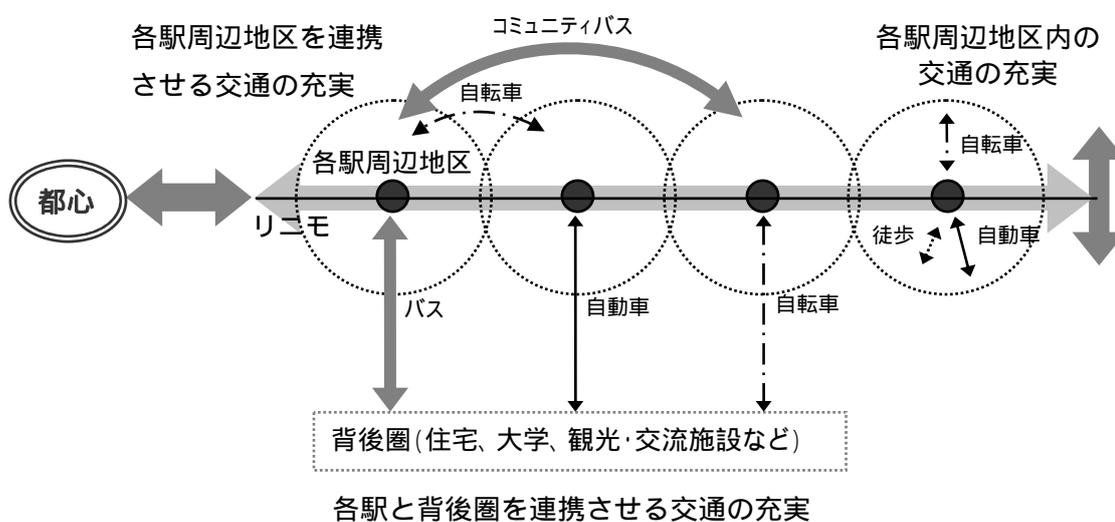
【方向性】

駅周辺に豊かな自然と調和した特色ある住宅や生活機能がコンパクトにまとまったまちづくりを進め、地域内外の移動において自動車や公共交通、自転車、徒歩等をかきこく使い分けるライフスタイルが実現でき、環境にも配慮したマルチモーダルによる持続可能なまちを目指していくことが求められる。

リニモの利便性の向上を図るとともに、駅周辺にコンパクトにまとまった特色ある地域がリニモでつながり、駅とのフィーダー交通を充実させつつ、リニモを中心に利用することにより、日常の買い物、レクリエーションなど生活の多くが沿線全体で完結でき、また、高度な都市機能も享受できる一つのコミュニティとして、他地域にはない大きな魅力が生まれるまちにしていくことが求められる。

* マルチモーダル：複数の交通手段の連携による総合的な交通施策

【リニモを中心とした交通の充実イメージ】

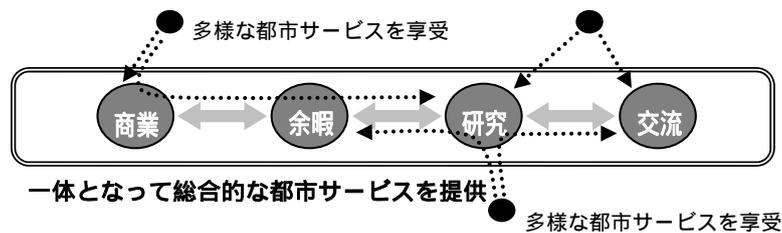


基本方針7 駅ごとに特色ある都市機能が集積したまちづくり

リニモ沿線の各駅は、それぞれ異なる立地条件にあり、機能の集積度合も異なるため、そうした状況を十分踏まえ、沿線全体を総合的、一体的にとらえて地域づくりを進めていく必要がある。

そこで、沿線内で多様なライフスタイルが実現できるよう、駅周辺への都市機能の集約的な配置を図ると同時に、リニモ、自動車、自転車、徒歩等をうまく組み合わせることによって、それぞれのライフスタイルに合った移動手段を整備・充実させ、例えば、居住・商業・文化・レクリエーション・研究等、それぞれの駅周辺が相互に機能分担をしながら沿線全体の都市機能を担うまちづくりを進める。

【各駅周辺の機能分担イメージ】



基本方針8 駅と背後圏が有機的に連携したまちづくり

リニモは、都心からの放射状路線である名古屋市営地下鉄東山線と愛知環状鉄道を連絡するという、名古屋圏の鉄道網の中で極めて重要な役割を果たし、結節点である八草駅は三河方面から名古屋への玄関口という機能も担っている。

また、沿線の背後圏には、大学や観光・交流施設等が多数立地しており、優良な田園地帯や海上の森をはじめとする多くの森林も残っている。

そこで、駅周辺の都市機能と、背後圏における住宅、大学、観光・交流施設等のネットワークを強化し、その移動手段を充実することで、軌道系交通機関としてのリニモの利便性を活用し、沿線地域全体の魅力を高めていく。

とりわけ、豊かな自然環境を活かしてグリーンツーリズム¹やエコツーリズム²を推進し、この地域の観光資源とリニモを散策路で結ぶことなどにより、観光に重点を置いた回遊性を高めていく。

- * 1グリーンツーリズム：都市住民が農作業を体験したり、その地域の歴史や自然に親しむ余暇活動
- * 2エコツーリズム：旅行者が、自然観光資源に対する案内や情報提供を受け、その保護に配慮しつつ、これらと触れ合い、知識・理解を深めるための活動

基本方針9 活発なコミュニティにより持続的に発展するまちづくり

リニモ沿線が、名古屋都市圏における優れた立地条件をもとに発展していくためには、良好な地域特性を生かしつつ、新たな住民の居住を促し、住民同士の良好なコミュニティが形成され、地域住民を巻き込みながら地域全体で取り組む持続的なまちづくりが必要である。

そこで、エリアマネジメントの観点も踏まえつつ、沿線に居住する住民同士のコミュニティが醸成され、多様な地域活動やイベントが展開され、“行きたい”“住みたい”“住み続けたい”と評価されるまちづくりを進める。

2. リニモ各駅周辺及び海上の森のあり方

ここでは、リニモ各駅周辺及び海上の森について、まず、現況の特性と課題や、現況を土地利用区分で整理し、それを基に2025年（平成37年）を展望した駅周辺の将来像、整備イメージを示す。

(表) 土地利用現況図における土地利用区分の概要

次頁以降の土地利用現況図は、瀬戸市、豊田市、日進市、長久手町の都市計画基礎調査を基に作成した。その土地利用区分は以下のとおり。

土地利用区分		概要
自然的土地利用	 田	水田
	 畑	畑、果樹園、採草地、養鶏（牛、豚）場、ビニールハウス
	 山林	樹林地
	 水面	河川水面、湖沼、ため池、用水路、壕
	 その他の自然地	原野・牧場、荒地、低湿地、河川敷・河原
都市的土地利用	 住宅用地	住宅、共同住宅、店舗併用住宅、店舗併用共同住宅、作業所併用住宅
	 商業用地	業務施設、商業施設、宿泊施設、娯楽施設、遊戯施設、商業系用途複合施設
	 工業用地	運輸倉庫施設、重工業施設、軽工業施設、サービス工業施設、家内工業施設、危険物貯蔵・処理施設
	 公共施設用地	官公庁施設、文教厚生施設
	 道路用地	道路、駅前広場
	 交通施設用地	自動車ターミナル、立体駐車場、鉄道用地
	 公共空地	公園・緑地、広場、運動場、墓園
	 その他空地	改築工事中の土地、未利用地、平面駐車場

出典：都市計画基礎調査

(1)長久手古戦場駅周辺

現況の特性と課題

【現況】

- ・ 県道瀬戸大府東海線と県道力石名古屋線の2つの幹線道路が交差する位置にあり、名古屋市からつながる市街地と田園地帯の境界にあたる。
- ・ 駅西側では市街地が広がり住宅や沿道商業施設が建ち並び、駅東側では農地が広がる中に既存集落が散在している。
- ・ 駅1km圏には、長久手古戦場公園や豊田中央研究所、愛知県口論義運動公園があり、1km圏の外縁には愛知学院大学をはじめ複数の大学が立地している。
- ・ 長久手町役場、日進市役所、愛知学院大学等へ連絡するバス路線が通る。
- ・ 駅周辺において、長久手町の新しい都市核を形成する長久手中央土地区画整理事業の計画が進められている。

【課題】

- ・ 長久手町の新たな都市核や日進市の北のエントランスゾーンとして、名古屋からつながる市街化区域に留意した良好で特色ある市街地整備を進めていく必要がある。
- ・ 長久手古戦場公園や豊田中央研究所、愛知県口論義運動公園や愛知学院大学等への玄関口である。また、長久手町役場や日進市役所方面からのバス交通の乗り換え地点でもあることから、駅周辺の拠点性・結節性を高めていく必要があるとともに、背後圏にある住宅団地とのバス交通を含めたアクセスの充実に図る必要がある。

[土地利用現況図]



駅周辺の計画的整備

【駅周辺の将来像】

- ・ 駅前には商業・公益サービス・レクリエーション施設等が集積し、沿線の大学生等が集う。
- ・ その周りには様々な世代が住む住宅地区が広がり、コミュニティが形成される。
- ・ 広域エリアの拠点として、長久手町はじめ日進市など近隣市町からも絶え間なく人々が行き交う。

【将来像実現に向けた視点】

- ・ 多様なライフスタイルへの対応
- ・ 若者が集うおしゃれなまちづくり
- ・ 複数世代が混在したコミュニティの形成

【中心的導入機能】

- ・ 居住機能
- ・ 商業・レクリエーション機能
- ・ 公益サービス機能

駅周辺の整備イメージ

長久手の新しいシンボル地区

駅前には商業・公益サービス・レクリエーション施設などが集積し、その周りには住宅地区が広がるなど多様な機能が凝縮されている。



平日の朝は、会社員、学生が、小走りに、また、自転車に乗り、駅に向かって急いでいる。夕方になると、仕事を終えた若い親が、わが子を迎えに行くついでに、夕食の買い物をしようとマイバッグを片手に歩いている。

近隣大学の学生が、リニモテラスの中にある大学連携施設に集まり、テラスで行うイベントの打合せを夜遅くまで行っている。

夜は、店員も学生アルバイトが多く、活気に溢れた店内で、仕事帰りの会社員、大学生が賑やかに一日の疲れを癒している。

休日の駅周辺は、商業施設に買い物へ行く家族連れや、愛知県口論義運動公園でスポーツをする若い人たちが行き交っている。商業施設の中心に位置する広場では、イベントが多く開催され、賑わいの中心となっている。

古戦場公園へ向かう途中の店では、お土産などが販売されている。

* リニモテラス：長久手古戦場駅前にまちの新たな顔として構想されている、広場とそれを囲む複合商業施設

(2) 芸大通駅周辺

現況の特性と課題

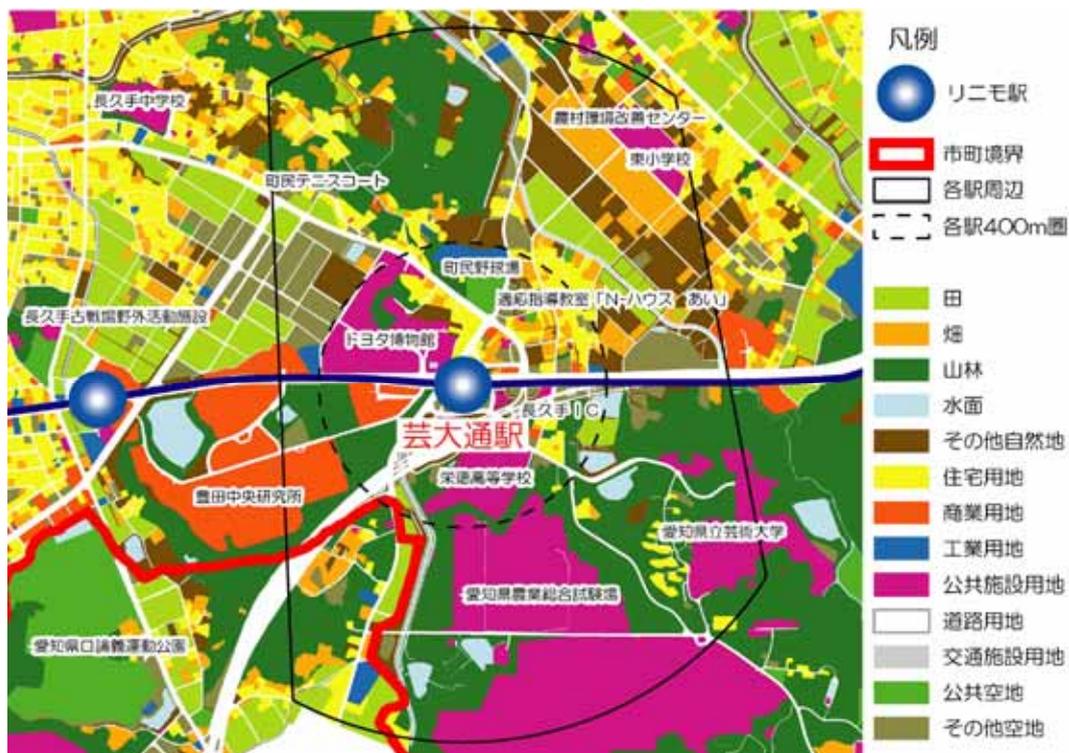
【現況】

- ・名古屋瀬戸道路が通り、駅南側に長久手インターチェンジが位置する。さらには、北側に県道力石名古屋線など道路が複雑に交差し、不整形な土地が多い。
- ・駅周辺は南西部の一部（豊田中央研究所）を除いて大部分が市街化調整区域であり、北側には駅近隣にトヨタ博物館が立地するほか、小規模な集落や町民野球場が立地している。また、駅の北東部は大部分が農業振興地域の農用地区域に指定されている。
- ・駅の南側には、豊田中央研究所や愛知県農業総合試験場、愛知県立芸術大学、栄徳高等学校といった大規模施設が立地し、そのほかは大部分が山林となっている。

【課題】

- ・トヨタ博物館や愛知県立芸術大学、愛知県農業総合試験場などの学術・文化関連の集積性を活かし、既存施設の機能強化や駅からのアクセス性の強化など、学術・文化が身近に感じられる地域づくりが求められる。
- ・長久手インターチェンジや県道力石名古屋線などによる不整形な街区構成に留意しつつ、駅周辺の有効活用が求められる。

[土地利用現況図]



駅周辺の計画的整備

【駅周辺の将来像】

- ・駅前では、芸術の成果を披露するような場が整備され、音楽や美術に関するパフォーマンスが繰り広げられて、人々で賑わっている。
- ・トヨタ博物館や愛知県立芸術大学などへのプロムナードがアートで彩られ、人々が行き交っている。
- ・周辺には都市的な住宅が整備されている。

【将来像実現に向けた視点】

- ・学生や研究者が活動しやすい環境づくり
- ・地域の文化施設、大学などへの円滑なアプローチの確保
- ・地域の条件に応じた住宅の整備

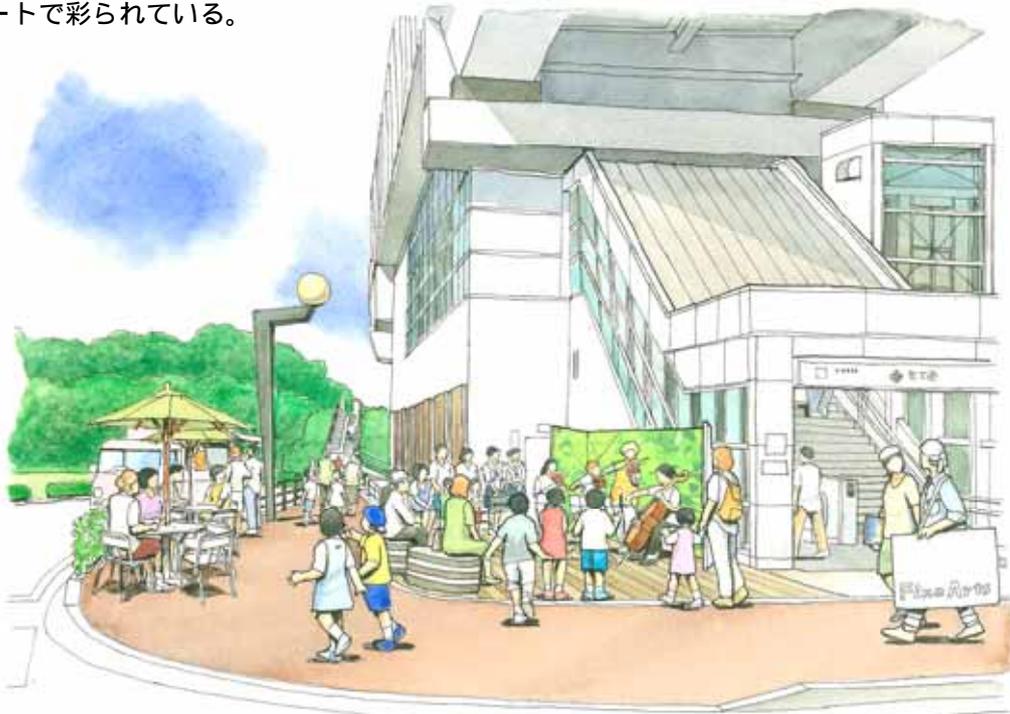
【中心的導入機能】

- ・居住機能
- ・芸術文化発信機能

駅周辺の整備イメージ

芸術・文化の玄関地区

駅前広場や周りに住宅が整備されている。また、トヨタ博物館や愛知県立芸術大学などへのプロムナードがアートで彩られている。



休日、駅前にはオープンカフェが広がり、その前では愛知県立芸術大学の学生や地元の住民が集まった器楽サークルが、駅前で日ごろの練習の成果を披露している。トヨタ博物館をスタートして、沿線施設を巡るツアーに参加する人たちが、駅前に集まってきている。緑豊かな愛知県農業総合試験場へと続く静かな散歩道を、四季を感じながらゆっくりと歩く親子や老夫婦がみられる。

(3) 公園西駅周辺

現況の特性と課題

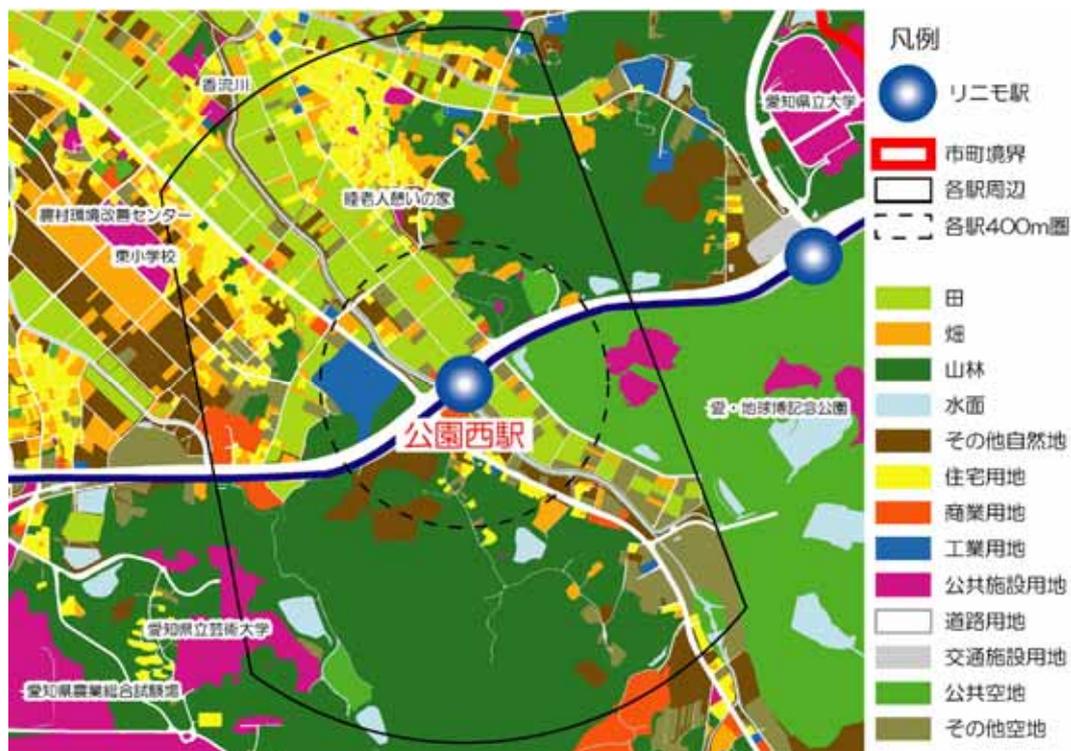
【現況】

- ・ 県道田名古屋線と県道力石名古屋線の2つの幹線道路が交差する位置にあり、愛・地球博記念公園の西側に位置する。
- ・ 駅周辺は全体が市街化調整区域であり、地区の中央部を香流川が流れ、その流域などは、農業振興地域の農用地区域に指定されている。
- ・ 2つの幹線道路沿道には、住宅や沿道商業施設が点在しており、その背後は山林となっている。
- ・ 長久手町福祉の家や名古屋商科大学に連絡するバス路線がある。

【課題】

- ・ 駅周辺には、愛・地球博記念公園や農地等の緑が広がり、その周辺環境に合ったゆとりのある住宅地の整備が求められている。
- ・ 長久手町福祉の家方面や名古屋商科大学方面へのバス路線がある駅であり、駅周辺の交通利便性を高めていく必要がある。
- ・ 農地や山林、河川などの自然環境を活かし、長久手町の推進する「田園バレー構想」を具現化する場としての地域づくりが求められる。

[土地利用現況図]



駅周辺の計画的整備

【駅周辺の将来像】

- ・ 駅前には広場や利便施設のある密度の高い住空間が配置されている。
- ・ その周りには、菜園と一体となった住宅が建ち並んでいる。
- ・ さらに、周辺には整備された田園地帯が広がり、水と緑に親しめるウォーキングロードを様々な世代の人々が散策している。

【将来像実現に向けた視点】

- ・ 駅周辺の都市的な住空間の整備
- ・ 自然と住が調和した田園住宅地の形成
- ・ 多様なライフスタイルへの対応
- ・ 複数世代が混在したコミュニティの形成

【中心的導入機能】

- ・ 居住機能

駅周辺の整備イメージ

パークサイドタウン地区

整備された田園地帯の中、駅前には広場と利便施設を含んだ密度の高い住空間が配置され、周りには菜園と一体となった住宅が立ち並んでいる。



平日の昼間、定年後の老夫婦が、自分の畑で収穫したみずみずしい野菜を手押し車で運んでいる。その後ろには、陽だまりの散歩道を歩く幼稚園児を先生が見守っている。夕方になると、中学や高校の野球部員が元気に声を出しながら川縁をランニングしており、犬を連れて散歩する人たちとすれ違って行く。休日になると子供連れの夫婦が、駅から連なる花いっぱいになられた遊歩道を楽しみながらモリコロパークに向かって歩いている。周辺の住宅には家庭菜園があり、中年夫婦が出来栄えについて語り合いながら、仲良く野菜の手入れをしている。

(4) 愛・地球博記念公園駅周辺

現況の特性と課題

【現況】

- ・ 愛・地球博記念公園の玄関口となる地区であり、駅の南側はほぼ全域が公園用地となっている。
- ・ 駅北側には愛知県立大学が立地し、その他は山林となっている。
- ・ 公園利用者や学生等、多くの人々が行き交う地区である。
- ・ 駅北西側はパーク&ライド駐車場として整備されている。
- ・ 愛知県陶磁資料館や名鉄瀬戸線尾張瀬戸駅、菱野団地など瀬戸市方面に連絡するバス路線がある。
また、南山大学瀬戸キャンパスのスクールバスの経由地にもなっている。

【課題】

- ・ 愛・地球博記念公園や愛知県立大学の立地を活かし、多くの人々が集い、学び、交流できる場としての地域づくりが求められる。
- ・ 愛・地球博記念公園では、地球市民交流センターをはじめとした計画的な整備を進めつつ、一層の集客機能の強化を図る必要がある。
- ・ 公園利用者や当駅周辺の学生等、多くの来訪者を受け入れるため、利便施設や交流機能等を一層充実する必要がある。
- ・ 菱野団地や南山大学瀬戸キャンパス等への玄関口であることから、駅周辺の交通結節性を高めていく必要がある。

[土地利用現況図]



駅周辺の計画的整備

【駅周辺の将来像】

- ・愛知県立大学や地球市民交流センターを中心に、沿線大学の地域連携活動や様々な分野での市民交流が盛んに行われているなど、人々が集い、学び、交流している。
- ・駅付近には利便性が高い施設もあり、大学生や公園来園者で賑わっている。
- ・パーク＆ライド駐車場や駅と沿線周辺施設をつなぐフィーダー交通の拠点となっている。

【将来像実現に向けた視点】

- ・地球市民交流センターを拠点にした市民参加による多様な交流活動の展開
- ・愛・地球博記念公園の集客力の充実強化
- ・大学における地域連携活動の促進
- ・学生や研究者が活動しやすい環境づくり

【中心的導入機能】

- ・交流機能（市民交流）
- ・レクリエーション機能（機能の充実）

駅周辺の整備イメージ

地球市民交流の拠点地区

愛・地球博記念公園には地球市民交流センターをはじめ魅力的な施設が整備されている。また、駅周辺には利便施設も立地している。



平日、地球市民交流センターでは市民団体が万博の成果を継承する多彩なプログラムを開催しており、小学生、小さな子ども連れの親子やおじいちゃん、おばあちゃんなども参加して楽しんでいる。

休日になると、愛・地球博記念公園では、沿線大学のコンソーシアムが企画した野外コンサートが開催されるなど、家族連れや若者たちで盛り上がっている。

公園のレストランでは、老若男女を問わず、たくさんの人たちが、様々な料理やお酒などの飲み物に舌鼓を打っている。

(5) 陶磁資料館南駅周辺

現況の特性と課題

【現況】

- ・愛・地球博記念公園の東側に位置し、愛知県陶磁資料館への玄関口となる地区である。地区の大部分には、保安林に指定された山林が広がっている。
- ・駅北側には、愛知県陶磁資料館へと続く遊歩道が整備されているほか、次世代モノづくり技術の創造・発信の拠点となる「知の拠点」が計画され、先導的中核施設や中部シンクロトン光利用施設（仮称）等、各種研究施設の整備が予定されている。

【課題】

- ・「知の拠点」を中心とした研究・交流・発信機能等を強化し、研究学園地区の中核的な役割を担う地域整備が求められる。
- ・駅東側を中心に広がる森林をはじめ、豊かな自然環境に配慮していくことが必要である。
- ・駅北側に立地する愛知県陶磁資料館へのアプローチの充実を図ることが必要である。

[土地利用現況図]



駅周辺の計画的整備

【駅周辺の将来像】

- ・「知の拠点」においては、先導的中核施設、中部シンクロトン光利用施設（仮称）はもとより、各種研究施設が集積しており、研究者だけでなく、次世代のモノづくりを担う子どもたちも行き交っている。
- ・世界をリードするナノテク等の科学技術の開発により、付加価値の高い製品等につながる技術の創造がなされ、世界に向けて発信されている。
- ・全国有数の陶磁博物館である愛知県陶磁資料館では、多彩なイベント企画が開催され、駅から愛知県陶磁資料館まで、人を楽しませるようなプロムナードが整備されている。

【将来像実現に向けた視点】

- ・科学技術の創造拠点の形成
- ・学術・研究機関相互の交流、連携の促進
- ・せと・まるっとミュージアム構想を踏まえた連携の推進

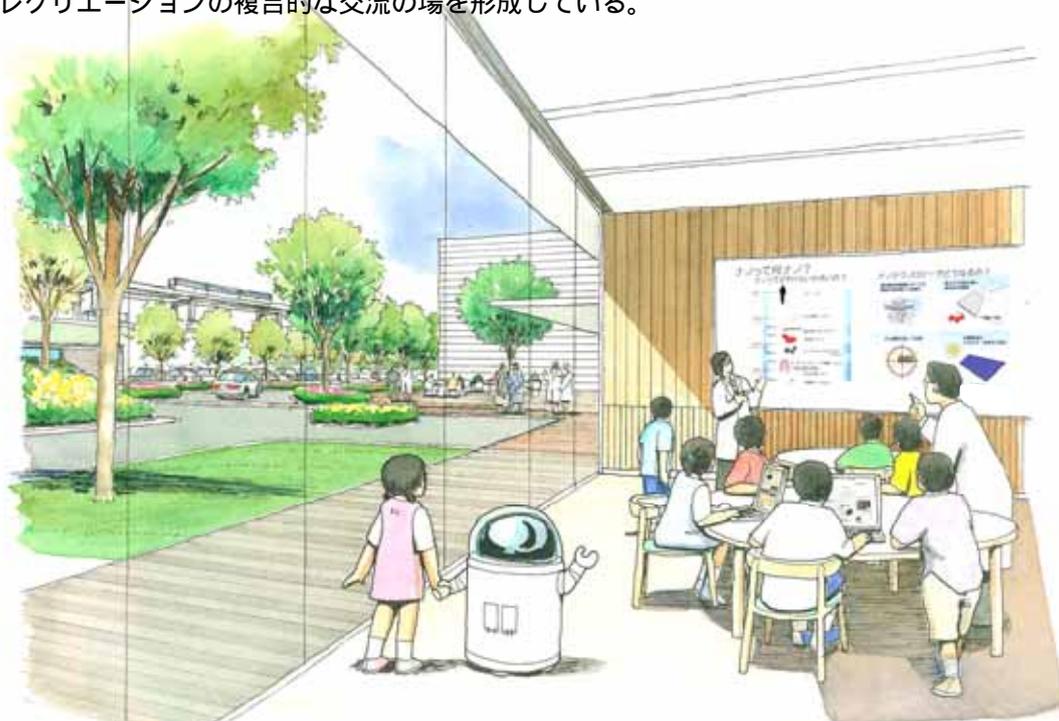
【中心的導入機能】

- ・研究開発機能

駅周辺の整備イメージ

科学技術の発信地区

愛知県陶磁資料館、知の拠点、愛・地球博記念公園、愛知県立大学などが連携し、文化、科学技術、スポーツレクリエーションの複合的な交流の場を形成している。



平日、研究者たちが慌しく仕事をする傍ら、社会見学に来た小学生たちは目をキラキラさせて興味深そうに科学技術の展示に見入っている。
休日には、豊かな自然環境の中、家族が陶磁器鑑賞や作陶・絵付、科学技術教室、スポーツレクリエーションを楽しみ、一日をゆったりと過ごしている。

(6)八草駅周辺

現況の特性と課題

【現況】

- ・リニモと愛知環状鉄道との結節点に当たり、駅前広場の整備等も行われている。地区の中央部から東へ猿投グリーンロードが伸びており、地区内には八草と八草東の2つのインターチェンジが立地している。
- ・駅周辺は南北に細長く市街化区域に指定されているが、勾配のある地形条件や生産緑地が散在するなど面的な整備が進まず、土地利用を制限する厳しい暫定的な用途地域が指定されている。
- ・市街化区域の外延に広がる市街化調整区域の大部分には、保安林に指定された山林が広がっており、鉱業権の設定もされている。
- ・駅1km圏にある愛知工業大学のスクールバス発着駅となっている。また、瀬戸市コミュニティバス及び豊田市保見地域バスも八草駅に乗り入れている。

【課題】

- ・リニモと愛知環状鉄道が連絡するターミナル駅として、また、猿投グリーンロードの2つのインターチェンジが立地する地域として、交通結節機能を活かした地域づくりが求められる。
- ・住宅地と生産緑地の調和に留意しつつ、市街化区域内に点在する低未利用地の有効活用が求められる。
- ・地域づくりを進める際には、駅南東側の市街化区域内に立地する埋蔵文化財への配慮が必要である。
- ・市街化区域周辺の森林を保全しつつ、自然環境との調和のもとで新たな産業機能誘導を検討していく必要がある。
- ・市街地整備実施の前提として、地区中央の割田川と秋合川合流部を起点として南下している1級河川伊保川の河川改修が必要である。
- ・既存の市街化区域では道路や公園、河川等の基盤が未整備である。

[土地利用現況図]



駅周辺の計画的整備

【駅周辺の将来像】

- ・リニモや愛知環状鉄道の鉄軌道や、猿投グリーンロードをはじめとする主要道路を利用し、名古屋、瀬戸、足助、岡崎方面等、広範な地域から来た人々が往来し、交流する交通結節性の高い新都市が形成されている。
- ・駅周辺では環境共生型の良好な市街地が形成される中、駅前には居住施設とともに、この地域の核となる利便施設・公益施設等の都市機能が配置されている。
- ・駅周辺には企業の研究開発施設等が周囲の里山と調和しながら立地し、本県の科学技術振興の一翼を担っている。

【将来像実現に向けた視点】

- ・乗り換えなど交通結節機能の強化
- ・新都心地区にふさわしい利便施設の誘導
- ・環境に配慮した良好な市街地整備による新都市形成
- ・研究開発など産業拠点の形成
- ・地域・学生・企業関係者が集い、活発に交流できる環境づくり

【中心的導入機能】

- ・居住機能
- ・交流機能（交通結節点）
- ・研究開発機能

駅周辺の整備イメージ

広域交通が結節する新都市地区

駅を中心に利便施設を含む環境共生型の良好な市街地が形成されており、広域交通の拠点、地域の生活拠点として、住宅、企業の事業所などが周囲の里山と調和している。



平日、リニモや愛知環状鉄道の駅の改札を出た大学生や研究者が、それぞれの大学・職場に向かっていく。また、リュックを背負った夫婦が海上の森に向かって緑豊かな遊歩道を軽やかに歩いている。パーク&ライド駐車場から、出勤途中のサラリーマンが駅に向かっていく。夜になると、駅前の飲食店では研究者たちが最先端の科学技術について熱く語り合い、その隣では、大学生が賑やかに将来の夢を描いている。休日は地元住民、企業関係者、NPOが協力して清掃活動に汗を流し、あいち海上の森センターでは、子どもたちがその間伐材を使った椅子作りに夢中になっている。駅前のコミュニティ施設には地元住民が集まり、イベントの打合せをするなど、地域コミュニティのつながりを深めている。

(7)海上の森

現況の特性と課題

【現況】

- ・瀬戸市の南東部に位置し、南は豊田市に接しており、面積は約 510 ha（あいち海上の森条例の対象区域）。
- ・土地利用の状況を地目別にみると、山林が 91.9%を占め、砂防地が 5.1%、田畑等農用地が 1.7%、その他 1.3%という割合になっている。
- ・法的な地域指定としては、保安林（土砂流出防備保安林）が約 400ha、愛知高原国定公園（自然公園特別地域第 3 種）が約 140ha、自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例による県の自然環境保全地域が約 128ha、砂防指定地が約 25ha となっている（重複指定あり）。
- ・自然環境や植生、土地利用、活用の面から、「施設ゾーン」、「ふれあいの里」、「生態系保護区域」、「恵みの森」、「循環の森」、「野鳥・古窯の森」の 6 つに区分されている。

【課題】

- ・県の自然環境保全地域をはじめ、地域全体に点在する貧栄養湿地や里山環境など特異な動植物が生育する環境の保全が求められている。
- ・地域の保全にあたっては、できるだけ規制的手法に頼らず、県民の自主的かつ積極的な参加を促し、保全に導いていくことが求められる。
- ・豊かな自然と接する機会が多くなるほど、保全に関する課題も多くなるため、自然への負荷が過大とならないよう、入り込み者数の適正化やマナーの徹底を図る必要がある。
- ・海上の森の景観や人々のくらし、生活の文化を尊重し、生活者との協調・調和を求めることが求められる。
- ・森林や里山での体験による学習と交流の場づくりを進めることが求められている。

海上の森



3. 将来の人口等

(1) 居住人口

構想の対象区域の人口は、約 12,300 人（平成 20 年 10 月 1 日現在 / 住民基本台帳ベース）となっている。なお、そのうちの約 71% が市街化区域を 1km 圏にもつ長久手古戦場駅周辺の人口である。

将来展望する年次（平成 37 年(2025 年)）の人口は、既存市街地の市街化の進展等のすう勢に加え、まちづくり事業など、本構想に盛り込まれた各施策を展開することにより、2 万 5 千人～3 万人程度になるものと見込まれる。

	平成 20 年（2008 年）	平成 37 年（2025 年） 展望年次
居住人口	12,300 人	25,000 ～ 30,000 人

対象面積 1,313.6ha（海上の森を除く各駅概ね 1 km 圏）

(2) 交流人口

通勤・通学や沿線施設への来訪など、地域外からの流入人口は、一日当たり 14,000 人（平成 19 年現在）となっている。

将来展望年次（平成 37 年(2025 年)）の交流人口は、既存施設の充実やまちづくりの進展による新たな施設立地等により、一日当たり 3 万 1 千人～3 万 6 千人程度になるものと見込まれる。

	平成 19 年（2007 年）	平成 37 年（2025 年） 展望年次
交流人口	14,000 人	31,000 ～ 36,000 人